

# Effectiveness of role-play in hazard prediction training for nursing students: a randomized controlled trial

## 看護学生が行う危険予知トレーニングにおけるロールプレイ使用 の効果の検証：無作為化比較対照試験

埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 博士論文  
指導教員：添田啓子、延原弘章、金野倫子  
2019年3月 1791004 佐藤安代

目的：看護教育における医療安全教育は世界的にも多くの関心を集めている。医療安全教育には、さまざまなシミュレーション教育が導入されている。看護学生は知識と臨床経験が不十分であるため、シミュレーション教育における事例の状況を学生が完全に理解することは難しい。そこで教育者はこの問題を解決するためにイラストやビデオ、患者シミュレーター（マネキン）を使用するなど工夫をしている。ロールプレイは、シミュレーション教育の一つとして、看護教育において広く使用されている。その中で医療安全教育に関して、イラストレーションやビデオなどの従来の状況提示方法と比較して、ロールプレイの有効性を報告している無作為化比較対照試験はみられなかった。そこで、ロールプレイの有効性を検証するために、日本で広く用いられている医療安全教育の一つである危険予知トレーニング（Kiken-Yochi-Training; KYT）において、イラストの使用との比較による無作為化比較対照試験を行った。

方法：研究参加者は94名の看護系大学2年生であり、ロールプレイグループ（Rグループ）またはイラストグループ（Iグループ）にランダムに割り当てられた。参加者はKYTの前後にリスク感性の質問紙に回答した。KYT後、参加者は危険予知項目確認テストを行った。分析には線形混合モデルを使用し、介入群内および介入群間の尺度得点の差異を調べた。

結果：R群の参加者は、I群の参加者よりも有意に高い危険予知項目数であった（R群： $2.50 \pm 1.07$ 、I群： $1.77 \pm 0.95$ 、 $P = 0.001$ ）。看護学生のリスク感性尺度によるリスク感性は、両群の得点が有意に増加したが、群間の得点増分には有意差は認められなかった。

結論：今回の無作為化比較対照試験では、看護系大学2年生のKYTにおけるロールプレイの有効性を示した。今回の研究はまた、KYTが看護学生のリスク感性を高め、その効果がロールプレイまたはイラストの使用という状況提示方法の影響を受けないという示唆を得た。

キーワード：危険予知トレーニング（KYT）、医療安全、看護教育、リスク感性